

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第千五百四十三號 昭和八年六月一日(木)

海軍大臣官房

1073

0324

○辭令

海軍大將 山本 英輔
海軍中將 高橋 三吉

今村 信次郎

昭和八年特別大演習審判官被仰付
海軍中將 寺 島 健

和田 秀穂
日比野 正治

昭和八年特別大演習軍醫科審判官被仰付
海軍醫少將 高杉 新一郎

海軍大佐

前田 政一

五郎

同 同 同 同 海軍少將 子爵 加藤 隆義
同 同 同 同 松山 茂
同 同 同 同 島田 繁太郎
同 同 同 同 佐藤 有馬
同 同 同 同 佐藤 中馬
同 同 同 同 田中 宽元
同 同 同 同 三郎
同 同 同 同 武治 宽之
同 同 同 同 茂實 實

昭和八年特別大演習軍醫科審判官被仰付
海軍醫少將 高杉 新一郎
同 同 同 同 海軍大佐 原 難波 常三郎
同 同 同 同 杉 大崎 井澤 喜義
同 同 同 同 野原 雅亮
同 同 同 同 田下 雄敏
同 同 同 同 原春 青清
同 同 同 同 馬太 助

海軍公報(部内限) 第千五百四十三號 昭和八年六月一日(木)

二五三

昭和八年六月一日

三五四

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同
公爵 島津 忠重
山 露 戸 牧 渡 杉 大 浮 太 古 岩 後 新
南雲 菅原 萱下 藤田 原見
木 塚 田 泉 部 山 内 田 本 伊 保 戸 政
道 塚 田 道 道 伊 久 七 三 保 太 郎 一
專 道 覚 慎 德 四 六 藏 七 傳 秀 泰 道
滿 治 太 郎 三 郎 慎 一 道 源 治 伊 久
治 太 郎

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同
海軍中佐 男爵
酒 龍 佐 德 代 山 丸 太 梶 今 藤 小 别 阿 山 中 高 松 阿 奥
卷 嶋 藤 永 谷 下 茂 原 保 井 田 林 府 保 木 島 口 永 部 次 嘉
宗 留 波 清 知 邦 定 菊 利 九 明 三 勝 多 武 嘉 信
孝 吉 藏 榮 志 彦 則 進 道 男 郎 次 朋 良 雄 輝 邱 輔 一

1074 0325

（各通）

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同
森 有 石 清 八 駒 田 沢 伊 藤 伸 上 森 原 橋 澤 草 山
馬 川 田 木 本 木 澤 山 野 古 宇 田 野 本 田 鹿 田 仙 太
友 信 信 孝 秀 克 英 志 加 三 武 泰 德 敬 順 三 鼎 虎 太
一 肇 吾 彥 綱 已 勅 久 浩 郎 治 三 郎 三 郎 重 三 郎 之
馨 吾 彥 綱 已 勅 久 浩 郎 治 三 郎 三 郎 重 三 郎 之
馨 吾 彥 綱 已 勅 久 浩 郎 治 三 郎 三 郎 重 三 郎 之

海軍少佐

同 同 同 同 同 同 同 同 同 海軍少佐 同 同 同 同
中 島 篠 仁 高 志 朝 山 松 能 松 田 魚 國 西 木 烏 伊 米 矢 小 川
堂 嶋 田 科 田 波 田 澄 田 住 田 尾 部 佳 田 田 下 越 澤 市 野 貫 雄
觀 利 太 宏 造 例 国 豊 要 錠 治 正 三 雄 昇 一 雅 田 安 之 進
惠 雄 八 檺 例 国 豊 要 錠 治 正 三 雄 昇 一 雅 田 安 之 進

1075 0326

昭和八年六月一日

二五六

男爵

竹平梅遠堀高宗谷栗上小橋兄林中富岡湊澄千深
内井谷藤内田雪口原原川 部瀬岡田川町
昌茂利新信悦義正勇榮定爲慶道金
馨平薰實忠種助義藏雄弘雄次遼浜俊次讓男二讓

昭和八年特別大演習審判官被仰付

同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同

三山鹿加山三宮堀江黛安川加毛田杉高浦石後
神田岡藤田和齋江島川口藤利日浦尾原藤
圓良之助周義俊朝久治正雅行剛太煥儀孝光太郎
正豐平枝勇男茂雄夫治雄雄郎郎六一華郎

1076 0327

（各通）

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 海軍大尉
野吉無山中瀬柴寺吉藤貴土若柴松佐大前山伊高
田井着本村戸田崎田島井楓永羅前田崎伊藤馬
六道仙祐健喜久文隆英菊掬美龍勝敬散清規矩正
郎教明二夫太三治三一徳二三男介毅一馬義夫

昭和八年特別大演習審判輔佐官被仰付 同 扇山田一正登
同 同 同 同 同 同 同 同 海軍機關大佐
海軍機關中佐
細近和梅平岩赤山小飯野福朝隈工藤兼市
谷藤住田木坂田野村立水隈彦吉平市郎
信一篤太郎正周卯道弘將寬次郎
馬澄二鼎一郎

1077 -0328

(各通)

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同
海軍機關少佐 永森田部松原原退貫義
二曾廣岸鳥坂島侯長寺田中日色御子柴繁重
見根瀬川海上田賀久色敏謹集得
仲伸藤覺專富紀一雄藏一雄勝
一雄藏雄一平久六介實榮雄爾潔政藏一雄勝

昭和八年特別大演習機關科審判官被仰付

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同
海軍機關大尉 安藤嘉一惠一
佐鈴那多福村河今清金半田江重
藤山須田角野田本非倉太郎武彦
六一安不二敏清金槌博務郎彦
郎貞和夫郎三二敏清金槌博務郎彦

1078 0320

(各通)		昭和八年特別大演習軍醫科審判官被仰付															
(各通)		海軍主計大佐 熊生 榮															
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
山口	三木	安田	爪生	田中	和四郎	河野	鹿鳴	福谷	大田	德田	伊藤	齋藤	英二	喜六	清治	徳男	吉行
善	榮助	由收藏	榮男	和四郎	通俊	通俊	竹千代	英二	喜六	清治	徳男	齋藤	喜吉	吉	利	吉	行
操	操	收	藏	和四郎	俊	俊	千代	英	喜	徳	男	齋	吉	吉	利	吉	行
（各通）	（各通）	（各通）	（各通）	（各通）	（各通）	（各通）	（各通）	（各通）	（各通）	（各通）	（各通）	（各通）	（各通）	（各通）	（各通）	（各通）	（各通）
海軍軍醫大佐	海軍軍醫大佐	海軍軍醫大佐	海軍軍醫大佐	海軍軍醫大佐	海軍軍醫大佐	海軍軍醫大佐	海軍軍醫大佐	海軍軍醫大佐	海軍軍醫大佐	海軍軍醫大佐	海軍軍醫大佐	海軍軍醫大佐	海軍軍醫大佐	海軍軍醫大佐	海軍軍醫大佐	海軍軍醫大佐	海軍軍醫大佐
長田	長田	長田	長田	長田	長田	長田	長田	長田	長田	長田	長田	長田	長田	長田	長田	長田	長田
淺沼	深田	山川	喜平														
鑄木	鑄木	鑄木	鑄木	鑄木	鑄木	鑄木	鑄木	鑄木	鑄木	鑄木	鑄木	鑄木	鑄木	鑄木	鑄木	鑄木	鑄木
喜一	勝芳	貞市	喜市														
資	資	貞	貞	貞	貞	貞	貞	貞	貞	貞	貞	貞	貞	貞	貞	貞	貞
平造	平造	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄

1079 0330

海軍公報（部内限）第千五百四十三號

昭和八年六月一日

○昭和八年特別大演習部隊編成中左ノ通被仰付

勝田三郎

海軍少佐 森川亦男
横須賀防備隊水雷長兼分隊長

竹中正雄
木村軍治
山村榮次
田村法
大林人
遠藤司
了介

森玉賀四
同

第六方位測定所長

同

第一方位測定管制所長

同

第二方位測定管制所長兼第四方位測定所長

同

第一方位測定所長

同

館山海軍航空隊分隊長

同

海軍少佐 田中利喜郎

同

海軍中尉 中島親孝

同

館山海軍航空隊附

同

（各通） 海軍大尉 福岡秀作

同

第一防備隊分隊長

同

第一航空隊通信長

同

（各通）

同

市川榮
川如虎
加藤秀吉
林田英一

同 同 同
同 同 同
同 同 同
同 同 同

第二航空隊附

（各通）

第一航空隊附
第二航空隊分隊長

（各通）

第一航空隊分隊長

勝田三郎

二六〇

海軍少佐 池田福男	同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同	海軍中尉 橋口仙 三原元 入元 三井家 伊佐 東祐 國滿 三田 國雄 俊一 家浦 國滿 三田 國雄	海軍大尉 三原謙 元 三 仙 喬 入 佐 東 祐 國 滿 三 家 浦 國 雄	同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同	同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同	同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同	同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同	同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同
-----------	----------------------------------	--	---	----------------------------------	----------------------------------	----------------------------------	----------------------------------	----------------------------------

1080 0331

第三潛水戰隊司令部附兼參謀	海軍大尉 内野 信二	兼室戶分隊長 海軍軍醫大尉 足羽 正伸
第三潛水戰隊參謀	海軍中尉 渡部 太助	上海駐在ヲ命ス 海軍中佐 岡野 俊吉
(各通)	同 久保 淸	同 尾崎 主税
神威乘組		
第四潛水戰隊司令部附	海軍機關大尉 岡 寅雄	
海軍軍醫大佐 田川 資造	海軍大尉 入佐 傑家	○郵便物發送先
昭和八年六月一日ヨリ六月二十四日迄臨時館山海軍		第一艦隊司令部、聯合艦隊司令部、軍艦金剛、榛名、
航空隊附被仰付		第一戰隊司令部宛
昭和八年六月二十五日ヨリ七月三十一日迄臨時聯合		六月 九日迄ニ到達見込ノモノハ 橫須賀
艦隊司令部附被仰付		同 二十三日迄ニ 同 山口縣栗野
昭和八年六月十日ヨリ昭和八年特別大演習終了迄臨		七月 二十八日迄ニ 同 佐世保
時左ノ通被仰付		七月 七日迄ニ 同 基隆
		同 十二日迄ニ 同 馬公
(各通)	同 大須賀都美次	第七戰隊司令部、軍艦阿武隈、山良、名取、第一水雷戰隊司令部、軍艦夕張、第二十二驅逐隊(早月)
室戶乘組	同 小林涌男	水無月、長月、文月)、第二十三驅逐隊(菊月、三月、望月、夕月)、第三十驅逐隊(陸月、如月、彌生、卯月)、第一潛水戰隊司令部、軍艦迅鯨、第二十八潛水隊(伊六三、伊五九、伊六〇)、第三十潛水隊(伊六六、伊六五、伊六七)、第一航空戰隊司令部、軍艦加賀、鳳翔、第二驅逐隊(沖風、峯風)
海軍藥劑少佐 村田 秀		

矢風、澤風) 宛

六月二十三日以後到達見込ノモノハ

左記ニ依リ陸上假設無線電信所ヲ設置ス同期間中電
報ニハ「ハホ」ノ指定ヲ要セズ
自六月二十二日至同月二十三日

山口縣栗野

自七月四日至同月七日基隆

備考 六月十三日聯合艦隊、第一艦隊旗艦ヲ金剛ヨ
リ陸奥ニ變更ノ豫定

○郵便物發送先

上海海軍特務機關及公使館附武官宛書類ノ封筒表記
ハ一律ニ左ノ如クシ「特務機關」ノ名稱ヲ使用セザ
ル様嚴ニ注意アリ度

佐世保郵便局氣付

上海海軍特別陸戰隊氣付

公使館附海軍武官室

何某宛

軍事郵便(朱書)

1082 0933

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第千五百四十四號

昭和八年六月二日(金)

海軍大臣官房

○令達

砲術長主管

官房第三五六一號
昭和八年五月四日
兵器中軍需部整理消耗兵器ヲ附表ノ通定メ本兵器ニ限
リ左記ノ通處理セシム

大正十三年官房第一五六九號ハ之ヲ廢止ス

昭和八年六月二日

海軍大臣

一、本兵器ニ要スル年度豫算額ハ艦政本部長、航空本
部長及軍需局長ト協議決定シ之ヲ艦政本部及航空
本部ヨリ軍需局ニ移シ軍需局ハ右費額ノ範圍内
ニ於テ各軍需部年度使用額ヲ定ムルモノトス
二、本兵器ハ其ノ中特ニ定ムルモノヲ除クノ外軍需部
ニ於テ其ノ購買及検査ヲ行フモノトス
三、本兵器中將來出納ノ見込ナシト認ムルモノヲ生ジ
タルトキハ出納命令官ノ承認ヲ經テ兵備品會計官
更之ガ處分ヲ爲スコトヲ得

海軍公報(部内限) 第千五百四十四號

昭和八年六月二日

二六三

1083

0334

甲 ○射擊用及空放用藥囊類、衛帶、間坐類(金屬製
ヲ除ク)、瓦斯止銅環、空放用間塞、毛塞、低塞及
藥囊蓋、絕緣線(英)

乙 蘑液、硫酸、△乾電器類、護謾管、火管室掃除布、
布入護謾帶、硫酸銅、礮砂、塩化亞鉛、鋸屑、護
謾劑、各種用紙類、軍樂用消耗品、覆硝子、牛
皮、硝子管、「エボナイト」管、「ファイルム」寫真銅用、
印畫紙(寫真銅用)、「ファイルム」爆破鑿査器用、印畫紙
爆破鑿査器用、乾板、帆布、帆縫系、索(英)

航海長主管

甲 間坐類、硝子類、螺釘類、緒線片、○觸着片、△
發條類

乙 刷子類、發光體、水銀、硫酸、油、乾燥劑、護謾
管、△乾電器類、帆布、帆縫系、索、鵝目環、覆
硝子、寫真用消耗品、提燈、洋蠟、△測風氣球、

喇叭總、喪章

水雷長主管

甲 間坐類、螺旋類、△螺釘類、△發條類、安全針類、

止栓類、導線類、△銅管、○制止針、護謨塞栓、

○壓搾砂糖片、螺旋類、△螺栓類、濾網筐、濾網、

○鉢、小尖螺、裝氣口、塞氣鉢軸、△擊針、調和

器用濾網骨子、啞子環、止軸螺、扭球、△止軸坐、

△炸藥室螺旋子、△鵝腳形齒車、鎖定栓、△絡車

軸止車止栓、△制止鉗、△分離器、分離鉗、坐金、

押桿、母螺、銅鋟、錫鋟、△觸着片、眼環、螺鉗、

螺軸、傾斜栓、絕緣線、魚雷用、機雷用、爆雷用、

掃海具用及防潛網用補用品

「ザラメ」砂糖、絹包線、結合線、護謨帶、護謨管、

護謨液、「ニッフエ」電液素、「カーバイト」、水銀、

硫酸、硫酸銅、鋸屑、△乾電器類、帆布、帆縫糸、

索、鳩目環、護謨蓋、發條筐、填物、石綿紐、「ダ

リセリン」、油、黑鉛、割栓類、護謨板、砂糖斷

線器保持片、各種用紙類、覆硝子、硝子管、竹竿、

金巾、絹糸、火口、硝子、ベン、砂囊、機雷用

通信長主管

甲 電鑄用觸着片、放電器用雲母輪、送信蓄電器用硝

子板、間坐類、衛帶類、各種發火栓

乙 級包線、結合線、硫酸、硫酸銅、布入護謨帶、△

乾電器類、送信機用硝子壺、革紐、送信蓄電器用

羅織、覆硝子、護謨管、硝子管、「エボナイト」管

飛行長主管

甲 ○間坐類、○各種衛帶、○發條類

乙 △乾電器類、「グリセリン」、防銹劑、「グリトス」、

油砥石、刷子類、電球

各種信號器用、帆布

整備長主管

甲 羽布、吹流標的曳索、索具類、△緩衝「ゴム」紐、

「ビアノ」線、「デュラルミン」線、△各種塗料、

△「エナメル」類、△「ワニス」類、「ラック」類、

漆、漆溶劑、木材接着劑、各種溶接劑、各種溶接

棒、△調整螺、各種鉛、螺子、△母螺、△螺釘、

△接合栓、發條座金、帶金、各種錐尖、△速力計

導氣管、△各種板金、△發條類、△「ゴム」管類、

「ゴム」環、△「ゴム」布、「ゴム」帶、△氣囊修

理用布類、△「クローフート」、△落下傘用曳索類、

△落下降修理用布、機體金具

乙 帆布、各種帶布、麻糸、安全線、銅燃線、航空繩

針儀用液、座金、割栓、止金、弦掛鉗及、「ペント

ホールゴム、「トグル」、△落下傘用環類、落下傘
 折疊用紐、吹流標的、「テープ」、「カタン」糸、毛
 糸、各種縫糸、落下傘修理用糸、各種針、各種針
 金、塗具溶剤、消防器液、「グリセリン」、「アセト
 ン」、「ミシン」油、時計油、「オイルダック」、「グ
 レダック」、「グリース」、「ゴールトサイス」、「ヘ
 ルタチック」、「ヴァキュームモビルグリース」、
 「スパーイヤー」、「アリカント」、「グリースプロダ
 クト」、「防錆剤」、「タルク」、石鹼、硫酸、蒸溜水、辨
 摺合糊、真鎔磨、「メタノール」、膠、「バラフイン」
 油、「エーテル」、溝狀金具、鳩目類、刷毛類、刷
 毛洗滌液、車輪用空氣弁、各種釘、木螺子、張線
 制止金具、蝶番、△止線、△止栓、鋼環、金剛砂
 布、「フェヤノート」、金線紗、各種衛帶、皮革類、刷
 硝子類、△「ランブラン」冷却片、△冷却管、布入
 「ゴム」帶、糸目「ゴム」、「ゴム」糊、「ゴム」液、
 報告球、「スポット」、酸素「ガス」、「アセチレン
 ガス」、水素「ガス」、白蠟、「アルミニユム」、
 白色合金、電球、便携袋電燈用、△乾電器類、△發
 光器、熾化石灰、「カーバイド」覆硝子、「アセチ
 レン」用火口類、△高壓電線、高壓電線用金具、

刷子類、△炭素棒、△電氣絕緣物類、寫真用消耗
 品、砂、用紙類、特種鉛筆、アレ斯顿、液化炭
 酸瓦斯、「ピアノ」線切斷器及、吹流標的接斷器、
 吹流標的切斷用皿

機關長主管

甲 衛帶及間坐類(空氣壓搾唧筒以外の金屬製ヲ除ク)
 調革各種、瓦斯「テープ」、油引絕緣布、小型携
 帶燈用電球、各種發火栓、纖維板、雲母板

乙 布入護謄帶、蠟付糊、「セルラック」、「バラフィ
 ン」、「ソセリン」、「アンモニア」、硝酸、醋酸、硝
 酸銀溶液、黃色結碘鹽溶液、護謄液、帶酸蒸溜水、
 「ニッケル」電液素、硫酸、△乾電器類、電燈用
 爮、覆硝子類、注油器用硝子、滴瓶、硝子管、試
 驗管類、「エボナイト」管、檢電器用護謄管
 一、本表中甲ニ屬スル消耗兵器ノ検査ハ工作廳ニテ之
 フ行ヒ○印アルモノハ工作廳ニテ之ヲ製造スルモ
 ノトス

二、本表兵器中△印アルモノハ内國註文造船造兵工事
 物件監督検査委託規程ニ依ル委託監督ニ付スルモ
 ノトス

○辭令

（各通）

海軍豫備少尉	松村	足達	小谷	武雄
海軍豫備機關少尉	藤澤	石原	神農	正輝
同	高見	安一郎	輝義	男知士
同	足達	正輝	正義	雄
同	松村	小谷	武雄	
海軍豫備少尉	藤澤	神農	正輝	
同	高見	正輝	正義	
同	足達	正義	雄	
高石	藤澤	正輝	雄	
見原	神農	正義		
安一郎	正輝	雄		
夫	正輝			
召集中第四艦隊司令部附被仰付				

右自昭和八年五月二十八日至八月二十五日九十日間
演習之爲召集又

（各通）

海軍豫備少尉	松村	足達	小谷	武雄
海軍豫備機關少尉	藤澤	神農	正輝	
同	高見	正輝	正義	
同	足達	正輝	雄	
同	松村	小谷	武雄	
高石	藤澤	神農	正輝	
見原	神農	正輝	雄	
安一郎	正輝	正義	雄	
夫	正輝	雄		
召集中第四艦隊司令部附被仰付				

（各通）

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

井池 中清 石中 緋日 友和 牧佐 井藤 石梅 原竹 秋小 今川
上上 村水 井村 部暮 野田 上井 原林 田島 由山 橋辰 光
源正留 友善 有喜 重文 孝唯 鰐一 長雄 夫
喜力 三治 吉男 二朝 平龍 薫次 渥市 雄

海軍豫備少尉	中鉢道男	今川光夫	小橋辰雄	犬伏万平	梅香三郎	藤吉泰	遊橋辰雄	湯佐美明	新谷健士	鈴木里健	荒田健次郎	吉田敬次	藤並惠美丸
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
竹島秋山一雄	市篠山一雄												
右昭和八年五月二十八日ヨリ約六箇月間教育ノ爲召 集ス													

(各通)

海軍豫備少尉	中鉢道男	今川光夫	小橋辰雄	犬伏万平	梅香三郎	藤吉泰	遊橋辰雄	湯佐美明	新谷健士	鈴木里健	荒田健次郎	吉田敬次	藤並惠美丸
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
荒山田一健	告上惠美丸	藤上喜力	井上喜力	池上喜力	中村正治	清水源	石留三治	中村友吉	綾村善	日暮有	井暮朝	井平龍	井朝彦
原田重文	林喜久雄	原田喜久雄											
梅田薰次郎	原田薰次郎												

鈴木 健士
新谷 里美
増田 健次郎
湯佐 泰明
遊橋 長雄
豊田 祝三
藤吉 六郎
梅香 三郎
大伏 万平
平郎

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

召集中横須賀鎮守府附被仰付（以上
五十八年六月海軍省）

○ 雜 款

○ 郵便物發送先
第二潛水戰隊司令部、軍艦球磨、第十八潛水隊（伊
五三、伊五四、伊五五）、第十九潛水隊（伊五六、伊
五七、伊五八）宛
六月十日迄ニ到達見込ノモノハ 吳
其ノ後ハ 第二艦隊司令部ニ同ジ

○懲罰
懲罰言渡書

1088 0339

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第千五百四十五號

昭和八年六月三日(土)
海軍大臣官房

○通牒

昭和八年六月二日
經給第六二號

海軍省經理局

關係各應御中

召集旅費支給ニ關スル件通牒

今回施行ノ特別大演習ニ關シ應召者ニ支給スベキ應召
旅費ハ現住地(下士官及兵ニシテ本籍地以外ノ現住地
ヨリ應召ノ者ニ在リテハ當該地ニ現住スルコトニ付官
公署ノ證明ヲ要ス)ヨリ到着地迄支給ノコトニ取扱一
定ス

○雜款

海軍軍令部編纂事務嘱託 岩坂利喜造
昭和八年特別大演習統監部附ヲ命ス(以上諸海軍軍
令部)

○特務艦膠州行動豫定變更(四月六日參照)
地名 (發)

地名	發	着
クツル	六月一日	五月三十一日
ヤツブ	六月四日	六月三日
クツル	六月六日	六月四日
メレヨン	六月十三日	六月七日
バラオ	六月二十五日	六月二十七日
メレヨン	六月二十九日	六月二十七日

○郵便物發送先

赤軍第四艦隊司令部、軍艦長門、扶桑、霧島、伊勢、 第五艦隊司令部、軍艦妙高、那智、羽黑、足柄、第 八艦隊司令部、軍艦那珂、川内、木曾、第九艦隊司 令部、軍艦那珂、川内、木曾、第九艦隊司	海軍軍令部出仕海軍中佐 尾崎 主税	第三班第八課勤務ヲ命ス
---	-------------------	-------------

海軍公報(部内限) 第千五百四十五號 昭和八年六月三日

二六九

1089 0340

令部、軍艦古鷹、大井、第三水雷戦隊司令部、軍艦龍田、第一驅逐隊（神風、野風、波風、沼風）、第五驅逐隊（松風、春風、旗風、朝風）、第二十九驅逐隊（夕風、疾風、追風、朝風）、第四水雷戦隊司令部、軍艦鬼怒、第六驅逐隊（電、響、雷）、第十驅逐隊（狹霧、曉）、第十九驅逐隊（綾波、敷波、浦波）、第二十驅逐隊（磯波、吹雪、薄雲）、第四潛水戦隊司令部、軍艦長鯨、第十七潜水隊（伊五二、伊五一）、第二十九潜水隊（伊六二、伊六四、伊六一）、第二十七潜水隊（呂六五、呂六六、呂六七）、第二十六潜水隊（呂六二、呂六〇、呂六一）、特務艦神威宛

六月六日迄ニ到達見込ノモノハ 大分縣佐伯同十九日迄ニ 同 山口縣三田尻
自六月二十三日迄ニ 同 大分縣別府
其ノ後ハ 鹿兒島縣志布志

左記ニ依リ陸上假設無線電信所設置ニ付同期間電報ニ「ハホ」ノ指定ヲ要セズ

○懲罰
懲罰言渡書

至自同二十九日至同二十九日
自七月三日同二十四日
鹿兒島縣志布志

1090 0341

(限 内 部)

海軍公報(部内限)第千五百四十六號

昭和八年六月五日(月)

海軍大臣官房

○通牒

教育第五九號ノ一五

昭和八年六月二日

海軍省教育局

關係各廳御中

無線電信遠距離受信検定成績調査資料

信要目左記ノ通

昭和八年六月第十七回無線電信遠距離受信検定信文送

ノ件通知
記

番號	信文	送信日時	東京海軍無線電信所	送信	速度(一分間)	信文修正	三 同	一時十四分	七五	本文八十三字目シ
一 午後一時 同 一時十一分	六月 七分 七四	一 七 七四					四 同	一時十七分	七六	ヲシト送信ス
							五 同	一時二十分	七五	三
							六 同	一時二十三分	七六	
							七 同	一時二十七分	七六	
							八 同	一時三十分	七五	
							九 同	一時三十三分	七六	
							一〇 同	一時三十六分	七五	
							一一 同	一時四十分	七六	
							一二 同	一時四十四分	七五	
							一三 同	一時四十七分	七五	本文六十四字目三
							一四 同	一時五十分	七四	ト送信ス

海軍公報(部内限)第千五百四十六號

昭和八年六月五日

二七一

1091 0342

一五 同	一時五十五分	七五	
一六 同	一時五十八分	七五	
備 考	一、天候 晴		
	一、送信狀態 良好		
		○ 雜款	
○郵便物發送先			
第一潛水戰隊司令部、軍艦迅鯨、第二十八潛水隊 (伊六三、伊六〇、伊五九)、第三十潛水隊(伊六六、 伊六五、伊六七)宛	六月 其ノ後ハ	十 日迄ニ到達見込ノモノハ 佐世保	初雪、白雲)、第十二驅逐隊(白雲、叢雲、東雲)宛 六月十一日迄ニ到達見込ノモノハ 吳
第一艦隊司令部ニ同ジ			第二艦隊司令部ニ同ジ
第六戰隊司令部、軍艦青葉、衣笠宛	六月十一日迄ニ到達見込ノモノハ 佐世保		第七驅逐隊(潮、櫻、曙)、第八驅逐隊(天霧、朝 霧、夕霧)宛
其ノ後ハ			六月 其ノ後ハ
軍艦加古宛	六月十一日迄ニ到達見込ノモノハ 吳		十 日迄ニ到達見込ノモノハ 橫須賀
其ノ後ハ			第二艦隊司令部ニ同ジ
第二水雷戰隊司令部、軍艦神通、第一驅逐隊(深雪、 其ノ後ハ)	第二艦隊司令部ニ同ジ		第一艦隊司令部ニ同ジ
五、五 <small>海軍工務規則第二十 八條第一項第十號</small>	解 儲 月 日 <small>西暦 一〇、二三</small>	解 儲 理 由 <small>於テ五月申解 儲セル職工左ノ如シ</small>	○職工解 儲 海軍火薬廠ニ
			六月 其ノ後ハ
			六日迄ニ到達見込ノモノハ 橫須賀
			第二航空戰隊司令部ニ同ジ
			同
			二十一日迄ニ同
			横須賀
			山
			第四艦隊司令部ニ同ジ
			山

1092 0343

○懲罰
懲罰言渡書

海軍公報（部内限）第千五百四十六號

昭和八年六月五日

二七三

1093 0344

海軍公報（部内限）第千五百四十六號

昭和八年六月五日

二七四

懲罰言渡書

○正誤 (清)
一昨三日本機特務艦膠州行動豫定變更中「發着」ハ
〔着發〕ノ誤

1094 0945

舊紙ハ本紙ト引換ヘ燒却相成度

海軍公報

(部内限) 第千五百四十七號

昭和八年六月六日(火)

海軍大臣官房

○通牒

特設司令部	集合期間	集合場所
第一航空隊	自六月二十五日至七月下旬	横須賀航空隊
第二航空隊	自六月二十五日至七月下旬	館山航空隊
特別大演習統監部	第一、第二通信隊 (父島無線電信所ヲ除ク)	横須賀海兵團
第一根據地隊司令部	六月十日	横須賀海兵團
	七月五日以後	軍艦春日
第三潛水戰隊司令部	六月二十日以後	軍艦多摩
第一根據地隊各部隊ノ集合期日及集合場所左ノ通	六月二十九日以後	第七潛水隊
第一根據地隊各部隊ノ集合期日及集合場所左ノ通	六月二十九日以後	第七潛水隊
特別大演習統監部	六月二十日以後	軍艦多摩
記事		
○辭令		
海軍中佐 多田 武雄		
(各通)		
海軍少佐 男爵 富岡 定俊		
滿洲國及中華民國へ出張ヲ命ス(内閣海軍省)		
昭和八年六月五日		
海軍公報(部内限)第千五百四十七號		
昭和八年六月六日		

1095 0346

海軍公報（部内限）第千五百四十七號 昭和八年六月六日

二七六

海戰要務令改正委員會委員ヲ命ス
艦隊運動程式改正委員會委員ヲ命ス

海軍機關中尉 矢口 良雄

昭和八年特別大演習部隊編成中第三潛水戰隊司令部
附被仰付置候處被免

海軍造兵少佐 稲富久雄
昭和八年特別大演習技術審判官被仰付
同 平野亮
昭和八年特別大演習技術審判官被免（以上^{五名}同）

1096 0347

(部内限)

海軍公報(部内限)第千五百四十八號

昭和八年六月七日(水)
海軍大臣官房

○令達

官房第二六八四號

繫留艦船用電流供給手續申左ノ通改正ス

昭和八年六月七日

海軍大臣

(別表)中潛水艦及内火發電機械ノミヲ裝備スル艦船ノ
擋備考ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ輕油ヲ主用スルモノニ在リテハ輕油トシ、一
五〇立ヲ以テ一噸トス

(會計法規類集下卷一三三頁參照)

○雜款

○郵便物發送先
第一航空戰隊司令部、軍艦鳳翔、第二驅逐隊(沖風、
澤風、峯風、矢風)宛
六月九日迄ニ到達見込ノモノハ 橫須賀

其ノ後ハ
軍艦加賀宛

六月十一日迄ニ到達見込ノモノハ 佐世保

其ノ後ハ 第一艦隊司令部ニ同ジ
備考來六月十三日當隊旗艦ヲ鳳翔ヨリ加賀ニ變更
ノ豫定

○訂正

去月二十四日通牒擋官房第二三五三號別圖B中有終會
本部ヨリ在郷軍人會本部へ、有終會支部ヨリ在郷軍人
會支部へ夫々聯絡線ヲ加フ

○正誤

本月二日令達擋官房第二五六一號軍需部整理消耗兵器
附表中砲術長主管甲ノ部「低塞及藥囊蓋」ハ「低塞及
藥莢蓋」及同乙ノ部「索鳩目」ハ「索、鳩目」ノ誤

海軍公報(部内限)第千五百四十八號 昭和八年六月七日

二七七

1097 0340

海軍公報

(部内限) 第千五百四十九號

昭和八年六月八日(木)

海軍大臣官房

○雜款

○郵便物發送先變更(六月三日)

赤軍第四潛水戰隊司令部、軍艦長鯨、第十七潛水隊
(伊五一、伊五二)、第二十六潛水隊(呂六〇、呂六一、呂六二)、第二十七潛水隊(呂六五、呂六七、呂六六)、第三十九潛水隊(伊六一、伊六二、伊六四)宛

六月十一日迄ニ到達見込ノモノハ 山口縣藤生
同十四日迄ニ同 廣島縣音戸
同十六日迄ニ同 山口縣德山
其ノ後ハ 赤軍第四艦隊司令部ニ同ジ

○郵便物發送先變更(六月三日)

特務船神威宛
六月十四日迄ニ到達見込ノモノハ 山口縣由宇
其ノ後ハ 赤軍第四艦隊司令部ニ同ジ

(部) 内限

海軍公報(部内限)第千五百五十號

昭和八年六月九日(金)

海軍大臣官房

○令達

官房機密第一二三〇號
昭和八年六月九日
左記ノ者當分ノ間海軍購買廳ニ於ケル指名競争契約入札又ハ隨意契約ノ見積加入ヲ停止ス

昭和八年六月九日

海軍大臣

一、合名會社國藤鐵工所 東京市品川區東大崎五丁目

三〇

官房第二七二五號

昭和八年特別大演習特設部隊ノ經費支拂ニ要スル資金
ノ前渡官吏並ニ取扱區分左ノ通定ム

昭和八年六月九日

海軍大臣

支 出 官 資 金 前 渡 官 更

資 金 區 分

○郵便物發送先
第二航空隊宛
六月十二日以後到達見込ノモノハ 館山航空隊

第二十八驅逐隊(蓬、蓮、蓼)宛
六月十一日迄ニ到達見込ノモノハ 鎮海

海軍公報(部内限)第千五百五十號

昭和八年六月九日

二八一

經理部長	橫須賀海軍	第一防備隊	第一防空隊	主計長
		防備隊(附屬艦船ヲ除ク) 及第五方位測定所ノ經費支拂ニ要スル資金	第一防空隊(分遣隊ヲ除ク) 及第五方位測定所ノ經費支拂ニ要スル資金	主計長
主計長	拂ニ要スル資金	第一防空隊(分遣隊ヲ除ク) 及第五方位測定所ノ經費支拂ニ要スル資金	第二防空隊及第二通信隊ノ 經費支拂ニ要スル資金	第一防空隊

1099

0350

海軍公報（部内限）第千五百五十號

昭和八年六月九日

二八二

同 同
十四 日迄ニ
十九 日迄ニ 同
其ノ後ハ 同

鎮美大
保
海灣社

1100 0351

海軍公報

(部内限) 第千五百五十一號

昭和八年六月十日(土)

海軍大臣官房

○通牒

同第一根據地隊(未定)
赤軍第四艦隊

官房機密第二四二號
昭和八年六月十日

海軍省副官

各廳長殿

特別大演習陪觀ニ關スル件照會

昭和八年特別大演習陪觀ニ關シテハ左記參照ノ上陪觀

希望者ノ官職氏名及特ニ希望スル事項ヲ記載シ各廳每

ニ取纏メ七月一日迄ニ御通報相成度

追テ配乗艦ノ指定等ハ海軍公報(部内限)ニ依リ御

承知アリ度

記
一、陪觀者ノ乘退艦期日及場所

青軍聯合艦隊

二十七日德山ニ於テ知床ニ乘艦
二十一日同 襟裳、隱戸ニ乘艦
ニ至ル

記
協定書

海軍公報(部内限)第千五百五十一號

昭和八年六月十日

二八三

經契第三號ノ二六二
昭和八年四月一日

海軍省經理局長

關係契約擔任官殿

冷質引拔鋼管ニ關スル件通知

冷質引拔鋼管ニ關シ左記ノ通住友伸銅鋼管株式會社ト
協定致候條右ニ依リ處理相成度

海軍省經理局長加藤亮一ハ左記冷質引拔鋼管ノ購買ニ
關シ供給者住友伸銅鋼管株式會社專務取締役古川俊之

1101 0952

助ト協定スルコト左ノ如シ

品名

住友伸銅綱管株式會社

專務取締役 古田俊之助

砲塔内水壓管

水管式罐管

蒸氣管

給水送管

氣密用鋼管

重油加熱器用管

一、本協定期間ハ昭和八年四月一日ヨリ昭和九年三月

三十日迄トス

一、本協定ニヨル單價ハ別表ノ通りトス、但シ本單價

中ニハ納入地（内地ニ限ル）迄ノ運賃其他納入ニ

要スル一切ノ費用ヲ含ムモノトス

一、本協定ニ依ル代價ハ納入重量ニ依リ之ヲ算出スル

モノトス

一、但シ水管式罐管ニ在リテハ增加重量百分ノ六ヲ超

ユル場合ニハ之ヲ百分ノ六ニ止ムルモノトス

右協定ノ確實ヲ證スル爲本書二通ヲ作成シ雙方記名調

印シテ各其ノ臺通ヲ保有ス

昭和八年四月一日

海軍省經理局長 加藤亮一

○辭令

（各通）

海軍豫備少尉 佐竹重男

同 綾部善二

右教育召集ヲ解除シ自昭和八年六月八日至八月二十五日七十九日間演習ノ爲召集ス

（各通）

海軍豫備少尉 佐竹重男

同 綾部善二

召集中第四艦隊司令部附被仰付（以上請海軍省）

○雜款

○特務艦野島行動豫定

地名 着

佐世保

横須賀

南方諸島

佐世保

六月十五日

六月十二日

七月十三日

十九日

七月十五日

十五日

内径9"及其以下														英式		徑	
内径230 ^{m/m} 及其以下														佛式		佛式	
内径230 ^{m/m} 及其以下														英式		厚	
同	8"	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	LSG	英式	厚	サ
同	7"	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	佛式	長	サ
同	6"	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	英式	長	サ
同	5"	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	佛式	長	サ
同	4"	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	英式	長	サ
同	3"	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	佛式	長	サ
外徑3"	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	英式	長	サ
同	21"	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	佛式	長	サ
同	11"	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	英式	長	サ
同	2"	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	佛式	長	サ
同	11/2ヨリ迄ノモノ	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	英式	長	サ
同	25 ^{m/m} ヨリ19 ^{m/m} 迄ノモノ	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	佛式	長	サ
(一)前記別表ニ示シタル厚サ長サハ其ノ標準ヲ示スニ止マルモノトス																	
(二)前記價格ハ昭和三年七月一日達第一〇〇號及同四年八年十五日達第八六號追加海軍造船造機造兵主要材料試験検査規則第貳編第五章ニ合格ノモノ又ハ之ニ類似ノ管ニ適合スルモノトス																	
但シ																	
(三)同第貳編第七章ニ合格ノモノ又ハ之ニ類似ノ管ハ前記價格ノ割増トス																	
(四)段付、押擴グ等特別ノ加工ヲ要スルモノ及特別規格ノモノハ相當ノ値増ヲ爲スモノトス																	
(五)特殊寸法ノモノ又ハ製造容易ナルモノハ相當値増ヲ爲スモノトス																	
(六)規格ナキモノ又ハ製造容易ナルモノハ相當値引ヲ爲スモノトス																	
(七)水罐式罐管ニ付テハ木栓ヲ附スル場合ハ前記價格ニ對シ罐管重量一斤ニ付一錢五厘ノ割増ヲ附スルモノトス																	
(八)契約寸法英式ノ場合ハ夫々上段佛式ノ場合ハ夫々下段ニ據ルモノトス																	

1103 0354

海軍公報

(部内限) 第千五百五十二號

昭和八年六月十二日(月)

海軍大臣官房

○通牒

艦本第六〇一五號

昭和八年六月十二日

海軍艦政本部長

關係各廳長殿

無線電話機技術講習期日ノ件通知

二月十七日官房機密第二八四號通達首題講習ハ左記ニ
依リ開催ノコトニ定メラレ候

海軍大臣官房

○辭令

六月二十一日 水 同 管制機

六月二十一日 水 同

部内限判任官ヲ以テ待遇セラル(十三日海軍航空本部)

實驗工工手 和田 武夫

○雜款

○特務艦室戸行動豫定

地名 吳 橫須賀 六月二十一日

馬南方諸島 公 七月十一日

月 日 曜 講習項目 時間及場所

六月十六日	金	九三式多重無線電話機	時間
六月十七日	土	ノ一般並ニ同送信機	自午前八時三十分
六月十九日	月	同秘密變成器及周波	至同後一時三十分
六月二十日	火	空中線裝置	四時

所
場
所

海軍公報(部内限) 第千五百五十二號

昭和八年六月十二日

二八五

1104 0955

海軍公報

(部内限) 第千五百五十三號

昭和八年六月十三日(火)

海軍大臣房官

○通牒

教育第五九號ノ一六

昭和八年六月十二日

海軍省教育局

關係各廳御中

無線電信遠距離受信検定成績調査資料

昭和八年六月第十八回無線電信遠距離受信検定信文送
信要目左記ノ通

記

番號	送信日時	佐世保海軍無線電信所	送信	信文修正	速度(一分間)	一	二	三	四	五	六	七	同	同	同	同	同	同
一 午後一時 二 同 一時 六 分	六月八日 二 分	七六				一〇	同	一時三十九分	八	同	一時二十九分	七五	同	一時三十六分	九	同	一時三十二分	七六
							同	一時四十二分				七五						
								同	一時四十六分			七五						
									同	一時四十九分		七四						

海軍公報(部内限) 第千五百五十三號 昭和八年六月十三日

二八七

1105 0356

一五	同	一時五十三分	七五
一六	同	一時五十六分	七五

備
一、天候晴

考
一、送信狀態 良好

○辭令

海軍軍令部出仕海軍大佐 西尾 四郎
第二班兼第一班勤務ヲ命ス（請海軍軍令部）

1106 0357

(部) 内限

海軍公報

(部内限) 第千五百五十四號

昭和八年六月十四日(水)
海軍大臣官房

○令達

昭和八年六月十四日
軍務一第八三號

官房第三八一七號

大正三年官房第九二九號中左ノ通改正ス

海軍諸例
則登載

昭和八年六月十四日
第三艦隊

海軍省軍務局長
第三艦隊及旅順要港部附屬艦船勤務者

旅順要港部參謀長殿
ノ家族移轉ニ關スル件申進

「旅順海軍無線電信所」ヲ「旅順要港部、旅順海軍無線電信所、駐滿海軍部及臨時海軍防備隊」ニ、「支那人」ヲ「滿洲國人」ニ改ム

今般艦隊編制ノ改正及旅順要港部ノ新設ニ伴ヒ昭和三年軍務一第三二一號遣外艦隊乗員勤務ニ關スル件申進
「第一、第二遣外艦隊」トアルハ夫々第三艦隊、旅順要港部附屬艦船ト解セラレ度

(参照) 大正三年官房第九二九號ハ旅順海軍無線電信所ニ於テハ拂人ノ代貝トシテ支那人ヲ使役スルコトヲ得但シ之ヲ軍屬ニ列セシメザルノ件ナリ

(諸例則卷一、一三七〇頁)

○通牒

昭和三年十二月十日
軍務一第三二二號

(参照)

海軍公報(部内限) 第千五百五十四號

昭和八年六月十四日

二八九

1107 - 0358

海軍省軍務局長
海軍省人事局長

第一、第二遣外艦隊司令官殿
第一、第二艦隊參謀長

遣外艦隊乗員勤務ニ關スル件

第一、第二遣外艦隊勤務ノ士官以下ニシテ警備地ニ家
族ヲ招致セシ者アルヤニ仄聞致居候處右ハ警備任務ノ
性質ニ鑑ミ面白カラザル傾向ニ有之候ニ付テハ事情已
ムヲ得ザル者ノ外自今斯ル事無之様可然御取計相成度
右依命申進ス

○ 雜 款

○郵便物發送先
第一根據地隊司令部、軍艦春日、嚴島、第一掃海隊
(掃五、掃一、掃二、掃三、掃四、掃六)、第一防備
隊、第一通信隊、第二通信隊、第一航空隊宛
七月十一日迄ニ到達見込ノモノハ 橫須賀
第二航空隊宛
七月十二日迄ニ到達見込ノモノハ

館山海軍航空隊

○郵便物發送先變更(六月三日)
第九戰隊司令部、軍艦古鷹、大井宛

六月十九日迄ニ到達見込ノモノハ

同二十二日迄ニ同其ノ後ハ
第四艦隊司令部 吳

山口縣三田尻

○臨時乘艦者檢便ノ件依頼
今期特別大演習中本艦ニ乘艦スル者ニ對シテハ出發前
檢便セシメラルル様御配慮ヲ得度
(比叡艦長)

1108 0359

(部内限)

海軍公報

(部内限) 第千五百五十五號

昭和八年六月十五日(木)

海軍大臣官房

○通牒

(各通)

海軍主計少將 佐々木重藏
海軍書記 里崎永三郎
同 山口釋之助

昭和八年六月十五日
軍需燃第一二一號

海軍省軍需局

關係各部御申

昭和八年特別大演習用艦營需品及燃料

取扱方解説ニ關スル件通知

本年五月二十日軍需燃第九五號(公報所載)通知首題
中第十一號解説ノ燃料豫算現狀報告ハ毎月末日調ニテ
作製ノコトニ定メラレアルモ本年大演習ノ分ニ限り全
演習期間ヲ通ジテ取纏メ演習終了當日ノ調査ニ基キ別
冊トシテ作製シ成ル可ク速ニ提出ノコトニ御取計相成
度

○辭令

海軍公報(部内限) 第千五百五十五號

昭和八年六月十五日

二九一

1109 0360

海軍公報

(部内限) 第千五百五十六號

昭和八年六月十六日(金)

海軍大臣官房

○辭令

海軍大佐 雪下勝美

海軍少佐 中瀬 淑

(各通)
思想調査委員会委員ヲ命ス

思想調査委員会委員ヲ免ス(以上十六音月海軍省)

○雜款

○通信
海軍通信略語左ノ通改正シ昭和八年七月十五日ヨリ實

施セラル
頁相當欄ニ鉛筆記入ノコト改正貼付紙ハ後送ス

改正 略 語	原 語	發 信 用	受 信 用	頁 數、 欄 及 行	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
追加ボ ヒ	防備部隊	四 左 八	三 右 二	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
		同	同	、 セキ	同	同	ホ テ カ	ホ テ カ	同	同	同	同	同	同	同	同
	シヤンリ	上海海軍特別陸戦隊	青軍	赤軍	第 、 、	第 、 、	艦隊	制所	方位測定管	五 右 三	五 左 一 五	同	同	同	同	同
					五 同 四	四 左 五	同	同	方位測定用電波ヲ發射ス (サレ度用電波ヲ發射セヨ)	同	同	同	同	同	同	同

海軍公報(部内限) 第千五百五十六號 昭和八年六月十六日

二九三

1110

6361

海軍公報（部内限）第千五百五十六號 昭和八年六月十六日

二九四

同	同	同	同	同	同
ト	チ	ス	ス	同	同
カ	セ	チ	チ	五	五
ツ	官	水中聽音所	水中聽音所	望	望
	中央審判部首席審判	中央審判部首席審判	同	同	同
	統監部附屬艦（隊）	統監部附屬艦（隊）	左	左	左
	統監部通信擔任艦所	統監部通信擔任艦所	云	云	云
			望	望	望
			右	右	右
			同	同	同
			二	二	二
			六	六	六

//// 0062

海軍公報(部内限)第千五百五十七號

昭和八年六月十七日(土)

海軍大臣官房

○雜款

○通信
鳳山海軍無線電信所ハ目下副通信系用トシテ 一二一
「キロサイクル」ヲ主用ス爲念

(部内限)

海軍公報(部内限)第千五百五十七號

昭和八年六月十七日

二九五

1112 0363

(限 内 部)

海軍公報(部内限)附錄

昭和八年六月十七日(土)
(海軍省人事局)

海軍大臣官房

昭和八年四月中ニ於ケル艦船恩給年加算始終期左ノ通

五 十 鈴	多 摩	平 戶	艦 船 名	加 算 終 期 (右 左)
四 四	四 四	四 四	四 四	四 月
二〇	一七	二三	一一	二八
同	馬	舞	旅	同
福	公	鶴	順	連
州		秦	皇	秦
		皇	島	皇
外國鎮戍		外國鎮戍		外國鎮戍
一月半		一月半		一月半
同上		同上		同上

1113 0364

神威	襟裳	野島	嵯峨	淀				春日	常磐			
				八					四	四	四	
四	四	四四	四	四四	四四	四四	四四	四	三〇	一七	九	
一四	二二	一九一二	三〇	二七	一七	一四	一〇	六	二	旅	旅	
旅順	吳佐世保順	旅馬公	連	同	同	同	同	同	横須賀	順	大連	
	北米沿岸	大王家島		同	大王家島	大孤山	南洋	青島				
	遠洋航海	外國鎮戍		同	同	外國鎮戍	遠洋航海	外國鎮戍				
	半月	一月半		同	同	一月半	半月	一月半				
		同上		同上	同上			同上				

1114 0395

薄	萩				夕菊、 顏葵	膠 州	早 鞆		
					八		八		
四四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
一六〇	一八	二六	二四	二〇	一九	二九	二八	二二	一九
同	同	旅	同	同	旅	一六	馬	同	同
		順			順	二	公		
秦皇島		葫蘆島	秦皇島		秦皇島	南洋	タラカン	復州灣	大王家島
外國鎮戍		同	外國鎮戍		外國鎮戍	同	遠洋航海	同	外國鎮戍
一月半		同	一月半		一月半	同	半月	同	一月半
同上		同上	同上		同上			同上	同上

1115 0366

吳 竹	若 竹	薦				藤							
四 四	四 四	四 四	四 四	四 四	四 四	四 四	四 四	四 四	四 四	四 四	四 四	四 四	
一 四 五	二 四	一 四	二 六	二 三	一 〇	八 一	二 六	二 四	二 六	二 四	二 四	一 八	
同 馬 公	同 馬 公		同	同	同	旅 順	同	旅 順	同	同	同	同	
廈 門	福 州		葫 蘆 島	秦 皇 島	青 島	葫 蘆 島		葫 蘆 島		同			
同	外國鎮成		同	同	同	外國鎮成			同	同			
同	一月半		同	同	同	一月半			同	同			
同上	同上		同上	同上	同上	同上			同上	同上			

1116 0307

刈 壹		英 蓉		朝 顏				早 苗	
四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
一七	一四	一七	一四	二三	二二	一七	一四	三三	一四五
同	旅	同	旅	同	同	同	同	同	同
順	順	順	順	順	順	順	順	順	順
復州灣		青島	山海關	同	復州灣	山海關		廣東	油頭
外國鎮戍		同	同	同	同	外國鎮戍		同	同
一月半		同	同	同	同	一月半		同	同
同上		同上	同上	同上	同上	同上		同上	同上
五									

1117 0368

○追加

早歲ノ部 (六五七頁)	艦名ノ下「昭和三年八月一日第八號驅逐艦ヲ早歲ト改稱」ノ次ニ「昭和八年四月一日驅逐艦籍ヨリ除カル」ヲ加フ	(次行「八、三、一一同」ヲ「三、二、旅順」ニ改ム)	平戸ノ部 (二四四頁)	七	七	六	大連着	
			球磨ノ部 (二五六頁)	七	八	一四	旅順發	青島經由吳ヘ
淀ノ部 (三一六頁)			八	二	六	旅順發	吳ヘ	關東州在勤
			三	六	旅順着		同	(在關東州勤)
樺ノ部 (五八八頁三行目)	室戸ノ部 (三六三頁) 八、二一 同 神威ノ部 (四一〇頁)	八、二一 同 二三、二一 大連 二二 大連	半月					半月
			在勤 加算 臺灣 在勤 ノ誤					

海軍公報(部内限)第千五百五十八號 海軍大臣官房

昭和八年六月十九日(月)

○令達

官房第二八九一號
左記ニ依リ海軍練習航空隊特修科學生ヲ採用ス

昭和八年六月十九日

海軍大臣

採用時期 昭和八年十一月一日
修業期間 六箇月

○通牒

官房機密第一三〇一號

昭和八年六月十九日

海軍次官

關係各廳長殿

戰時餘人ヲ以テ代フベカラザル者ニ關
スル件申進

陸軍豫備役、後備役、第一補充兵役ニ在ル軍人ニシテ
昭和九年四月一日ヨリ同十年三月三十一日ニ至ル期間
ニ於テ海軍官衙、學校、工廠ニ在職シ戰時餘人ヲ以テ代
フベカラザル者及特種ノ雇員、傭人、職工ニシテ戰時
必要缺クベカラザル者有之候ハバ調査ノ上左記様式ニ
依リ名簿作製來ル八月二十五日迄ニ到達スル様本籍地

海軍公報(部内限)第千五百五十八號 昭和八年六月十九日

二九七

採用資格	佐世保	吳	横須賀	鎮守府	所管	員數	採用員數
特務士官、准士官ニシテ整備術(發動機度ノ技術ヲ有スルモノ又ハ之ト同程	二	二	二				

1119

0370

所管師團長（朝鮮（滿洲國間島又含る）又ハ臺灣若ハ關東州（滿洲國
間島ヲ除ク）居住者ハ各朝鮮又ハ臺灣若ハ關東軍司令官等
ヘ直接通報（同寫十通海軍省へ送付）相成度

追テ本文通報後昭和十年三月三十日迄ニ新任、轉
免等ノ異動アリタルトキハ右ニ準ジ其ノ都度同様式
（異動事項、異動年月日等）ニ依リ通報相成度

記

(用紙美濃紙)

第何師團在籍者召集猶豫者名簿 官署等ノ名

現職名	役種	兵科(種)部官等級	服裝	役微集隊名年	本籍	地	氏名
何豫備歩兵	步兵	中尉			何市	何町	何某
何補充兵	步兵	二等兵		何番地	何縣何郡何村		何某
何豫備騎兵	騎兵	上等兵		何	何		何某
何後備工兵	工兵	曹山砲隊		何	何		何某
何後備高射兵	高射兵	重砲隊		何	何		何某
何後備鐵道隊	鐵道隊	等兵		何	何		何某
何年何名				何	何		何某
何某	何某	何某		何某	何某		何某

調製上ノ注意

- 一、本名簿ハ八月一日現在員ニ就キ調査スルモノトス
- 二、豫、後備役下士官、兵又ハ教育ヲ受ケタル補充兵ハ其ノ服役シタル部隊名ヲ歩兵隊、戦車隊、騎兵隊、野砲隊、山砲隊、野戦重砲隊、騎砲隊、重砲隊、高射砲隊、工兵隊、鐵道隊、電信隊、飛行隊、氣球隊、輸重隊等ノ如ク服役部隊名欄ニ記入スルモノトス但シ諸工長、計手、看護長、看護兵、磨セズ
- 三、徵集年ノ欄ニハ上等兵級以下ノ者ニ就キ記入スルモノトス

四、本名簿ハ各本籍地師管毎ニ別紙ニ調製シ朝鮮、臺
灣、關東州及滿州ニ居住スル者ハ除クモノトス

五、朝鮮、臺灣、關東州及滿洲居住者ニ在リテハ各々
別紙ニ調製シ尙本籍地トアルハ現住地ニ改メ其ノ
現住地ヲ記入スルモノトス

六、歸休兵ヲ記載セザルコト

七、職工ノ現職名ハ海軍工務規則ニ依ル名稱又ハ階級
ヲ記入ノコト

○辭令

海軍中尉 山之内 醇

昭和八年特別大演習部隊編成中第一航空隊附被仰付

(十六日
海軍省)

1121 0372